

JR総連・JR西労の岡山地方本部は、9月6日「組織破壊攻撃粉碎！総団結をかちとる岡山地本総決起集会」を開催し、JR西労組合員2名の「組織破壊攻撃」に対して、断固たる決意？を固めたようだ。

## JR総連・JR西労に対する 組織破壊攻撃勃発！？内紛？

JR西労・中国地域本部「闘争情報No.3」によれば、JR西労A組合員が、JR西労の組合員であることが子息の就職活動に支障をきたすことを危惧し、「(息子の就職が決まるまで)署名は出来ない」「(息子の就職の件で)一時白(シロ：脱退のこと)になるかもしれない」などと発言したことを「組織破壊攻撃」と断定、組合員権停止とし、さらに、A組合員の組合員権停止処分に対し、JR西労B組合員が処分取り下げを求めて「嘆願書」をおこなったこと等を受け(同じく組合員権停止)、9月6日に「一切妥協することなく組織破壊攻撃を粉碎する！」集会が開催された模様である。

私たちJR連合にとって、何ら関係のない、JR西労の内輪揉めではあるが、相も変わらず、個人を組織・集団で糾弾し、第二、第三の「浦和電車区事件」を生み出しかねない彼らの運動は論ずるに値せず、これが「当たり前前の労働運動」とは笑止千万だ。JR総連が標榜するヒューマニズム精神がいかなるものか、一度わかりやすく解説して頂きたいものだ。

さらに、JR西労・中国地域本部「闘争情報No.4」によれば、9月20日、B組合員が「組織の団結を乱す行為」を行ったことに対して、おどろおどろしい「警告書」を以下の理由で発し、本騒動は泥沼化の様相を呈している。JR総連・西労の組合員はこの警告書を見て、何を思い、何を感じているのか。内なる敵を作り攻撃する、「積極攻撃型組織防衛論」は今なお健在のようだ。今後の展開が注目される。

1. 組合員権停止中であるA組合員(闘争情報では実名)と意思統一を図り、今回の件について組合員に流布したこと。
2. 組合員権停止の理由について、新見分会執行委員長に異議を申し立てたこと。
3. 三回の聞き取りに真摯に向かうことなく、「組合員権停止を甘んじて受ける」と言ったにも関わらず、虚偽の内容を組合員に流布したこと。
4. 9月6日の岡山地方集会の中身を組合員から収集したこと。
5. 反省を促す意味で組合員権停止にしているにも関わらず、上記のように反省の姿勢は全く見られない。いま一度組合員権停止とはどういうことか考えること。

(JR西労中国地域本部「闘争情報No.4」より抜粋)

**これが彼らのヒューマニズムの実態です。JR総連・JR西労と決別し、JR連合の旗の下に結集しよう！**